

平成 29 年 11 月 24 日

日本ジオパーク委員会  
委員長 尾 池 和 夫 様

島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会  
会長 松 浦 正 敬



### 第 31 回日本ジオパーク委員会審査結果報告書に対する回答について

第 31 回日本ジオパーク委員会審査結果報告書で指摘された「早急な対応が必要な課題（ジオパークの名称やテーマの再検討）」について、以下のとおり報告いたしますので、再審査をしていただきますようお願い申し上げます。

#### 1. これまでの経過

本年 4 月に提出した日本ジオパークネットワーク加盟申請書については、5 月に開催されたプレゼン審査会において、国引き神話と大地の成り立ちに関わる記述が誤解を生む恐れがあるという指摘を受けたことから、本協議会での議論を重ね、別紙のとおり構成（第 1 章前半部分の流れ）の見直しを行った。その構成を基に組み立てた基本ストーリーをベースに、ジオパーク活動や 8 月の現地審査での説明を行ってきた。

基本ストーリー：国引きジオパーク構想エリアは、日本海を形成した地質時代の大規模な地殻変動により造られた地域である。このダイナミックな大地の営みの中で形成された「島根半島」が天然の防壁となって日本海の厳しい波風を遮るとともに、中国山地からの土砂を堰き止め、「環日本海交流の拠点となる潟湖」や、「肥沃な平野」を形作ることで、「古代出雲文化」が育まれてきた。

また、名称について、現地審査段階では、地元の思いを中心に説明したが、全国から見た分かりやすさや、エリアとの整合性という観点で再検討を行った。

#### 2. 早急な対応が必要な課題に対する回答

まず、名称に関しては、「国引き」が私たちの祖先が脈々と受け継ぎ継いできた歴史文化であり、誇りや愛着を持っていることや、ジオパーク活動を通じて、関係団体や市民、地元の子もたちに定着してきていることなど、地元の思いや浸透のしやすさに重点を置いてきたところである。

一方で、「どこにあるのか?」「どこまでのエリアなのか?」というご意見への対応や、今後更に幅広い活動を展開するためには、全国からの視点を大切にしたい分かりやすい名称が必要と考え、本協議会内で再度検討することとした。

そこで、本構想エリアの特長でもある島根半島、宍道湖、中海といった地名（地域名）を用いた名称を提案し、地質地形、生態、歴史文化の専門家や、ジオパーク活動の担い手である地元団体、ガイドの皆様などに意見を求め、『島根半島・宍道湖中海ジオパーク』に変更することで賛同をいただいたところである。

次に、テーマについては、プレゼン審査でもご指摘があったことから、前段の「これまでの経過」で述べたように、既に改善を図り、それらを踏まえたジオパーク活動を行ってきた。このことは、現地審査におけるガイド活動等の評価につながったものと受け止めている。

また、加盟申請書についても、本報告に合わせて、該当部分である第1章1-1と関連するテーマの見出しを『出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地』に差し替え、対外的にも誤解が生じないように対処していきたい。

なお、エリアについては、変更後の名称でも表しているように、将来的には宍道湖中海の周辺地域を想定しているが、まずは、松江市・出雲市の枠組みで、自然遺産の保護保全、科学や防災等の教育、地域資源を活用した持続的な地域づくりをしっかりと推し進めていく所存である。

#### (1) 名称

「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」

(Shimane Peninsula and Shinjiko Nakaumi Estuary Geopark)

#### (2) テーマ

「出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地」

※別紙「加盟申請書 第1章1-1」のとおり

### 3. 検討プロセス

本協議会では次のとおり各種会議を開催し、指摘事項に対する検討を重ね、合意形成を図ってきた。※協議検討経過については別添資料を参照

#### (1) 指摘事項

- ・5/21のプレゼン審査会：国引き神話と大地の成り立ちに関わる記述（加盟申請書第1章1-1の構成やテーマ等）
- ・9/27の日本ジオパーク委員会：ジオパークの名称、テーマ等

#### (2) プレゼン審査会以降の各種会議の開催状況

##### ・事務局会議

6/4、6/12、6/27、7/6、7/13、7/20、7/25、8/1、8/23、9/20、9/28、10/3、10/12、11/7、11/14の計15回開催（9/28以降は名称についても協議）

##### ・専門部会

6/19、7/25、10/3、11/14の計4回開催（10/3以降は名称についても協議）

- ・臨時総会

11/21 に開催（ジオパークの名称、テーマ、協議会名の変更、回答案について承認）

#### 4. その他

##### (1) 中期的に対応が必要な課題に対する検討状況

- ・看板や解説版については、基本フレームとサイト等の基礎情報はほぼ固まったことから、次の段階として、分かりやすい見せ方や具体的な設置計画を検討している。なお、地域住民への理解促進についても、出前講座やジオ授業を継続的に進めており、また、9月にはジオパークの魅力を紹介する番組を放映したところである。
- ・拠点施設については、マリンプラザしまね整備に係る基本設計を終え、認定後すぐにでも改修に入れるよう準備を整えている。また、出雲科学館においてもジオパークコーナーを設置し、案内板や展示物の充実を予定している。併せて、松江駅前の国際観光案内所、日御碕観光案内所についても順次整備を行う計画である。
- ・ガイド（団体）間の連携については、関係団体（者）と協議を重ね、その核となる専門部会（若しくはガイドの会）の設立準備を進めている。

##### (2) 協議会名

本協議会の名称についても、指摘事項には挙っていないが検討を行った。ジオパークの名称が変わる中で、全く別の取り組みという印象を与えないよう、これまでの活動との継続性を残す必要があるという意見を踏まえて協議会名を決定した。

「島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会」

## 協議検討経過について

## 1 総会（1回）

メンバー：会長、副会長、会員、監事 計53名（別添名簿のとおり）

## ◇臨時総会

日 時：平成29年11月21日 15:45～16:45  
場 所：タウンプラザしまね6階大会議室  
議 題：日本ジオパーク委員会の指摘事項に対する回答(案)について 他  
結 果：ジオパークの名称、テーマ、協議会名の変更及び回答(案)を説明。  
名称の変更は10月3日、11月14日の専門部会、その間のガイド  
を交えた事務局会で議論を重ねており、反対意見はなかった。  
テーマの変更は、6月以降、見直した内容で活動しており、申請書第  
1章の該当部分の差し替えについても、実態に合わず変更であること  
から、反対意見はなかった。  
協議会名の変更とともに、回答案は全会一致で承認され、12月の再  
審査に臨むこととなった。

## 2 専門部会（4回）

メンバー：会長代行、部会長、副部会長、部員 計54名（別添名簿のとおり）

## ◇第1回専門部会（合同会、3部会）

日 時：平成29年6月19日 14:00～17:00  
場 所：タウンプラザしまね6階大会議室  
議 題：プレゼン後の指摘事項について 他  
結 果：プレゼン審査後に指摘された事項を報告した。ジオパークの名称につ  
いては変更しない理由を現地審査で説明することを確認した。申請  
書第1章の1-1については、指摘を踏まえ、誤解が生じないように  
構成を変更するなど、現地審査までに対応を図ることとした。

## ◇第2回専門部会（合同会、3部会）

日 時：平成29年7月25日 14:00～15:30  
場 所：松江市役所第1常任委員会室  
議 題：現地審査に向けて 他  
結 果：現地審査の対応と概要説明の内容について確認を行った。  
協議会への新規加入団体が承認された。

## ◇第3回専門部会（合同会、3部会）

日 時：平成29年10月3日 14:00～16:00  
場 所：ニューアーバン2階湖都の間  
議 題：JGCの審議結果について 他  
結 果：認定保留の理由について説明し、名称とテーマの変更は必要という結

論になった。地名等の入った名称の素案を複数提示し、継続審議とした。なお、名称等を変更すれば認定されるのかなどの意見が出された。

◇第4回専門部会（合同会、3部会）

日 時：平成29年11月14日 14:00～16:00

場 所：ホテル白鳥3階鳳凰の間

議 題：JGCへの回答(案)について 他

結 果：ジオパークの名称、テーマ、協議会名の変更について承認された。名前の長さに懸念があったが、場所や本構想エリアの特長が分かりやすいなどの意見もあり、この内容で臨時総会に諮ることとなった。

3 事務局会議（15回）

メンバー：会長代行、事務局次長、事務局員

（松江市・出雲市・島根大学・委託会社） 計10名

◇第7回事務局会議（6/4 くまびきメッセ401会議室 15:00～16:00）

議題：プレゼン後の指摘事項について 他

内容：ジオパークの名称は変更しないで現地審査に向かう。申請書第1章の1-1は、指摘を踏まえ、誤解が生じないように構成を変更する。現地審査の準備、ガイド養成講座の準備。

◇第8回事務局会議（6/12 松江市3階第2常任委員会室 13:30～17:30）

議題：プレゼン後の指摘事項について 他

内容：申請書第1章1-1素案審議。ジオパークの名称については変更しない理由を現地審査で説明する。現地審査の準備、ガイド養成講座の準備。

◇第9回事務局会議（6/27 松江市第3別館301会議室 14:00～17:00）

議題：現地審査に向けて 他

内容：専門部会の振り返り、申請書第1章1-1素案審議、現地審査の準備。

◇第10回事務局会議（7/6 松江市3階第2常任委員会室 13:30～18:00）

議題：現地審査に向けて 他

内容：現地審査時の現地説明について自己評価表との兼ね合いを協議。ビジターセンター、看板の協議、ガイド養成講座の申し込み状況の確認。

◇第11回事務局会議（7/13 松江市第3別館304会議室 13:30～18:00）

議題：現地審査に向けて 他

内容：自己評価表に準じた形で概要説明を行うよう変更する。現地審査の資料確認、ビジターセンター、看板の協議。

◇第12回事務局会議（7/20 松江市3階第1常任委員会室 13:30～17:30）

議題：現地審査に向けて 他

内容：現地審査の概要説明、審査コースについて協議。TV番組の放映（9/24）について協議。

◇第13回事務局会議（7/25 松江市3階第1常任委員会室 15:30～18:00）

- 議題：現地審査に向けて 他  
内容：現地審査の概要説明、審査コースについて協議。
- ◇第14回事務局会議（8/1 松江市3階第1常任委員会室 14:30～17:00）  
議題：現地審査に向けて 他  
内容：現地審査の対応の確認。ビジターセンター、看板等の協議。
- ◇第15回事務局会議（8/23 松江市2階応接室 15:30～17:30）  
議題：審査員からの課題 他  
内容：テーマの変更、ビジターセンター、看板、ガイドの会等の協議。ジオパーク活動補助金の募集。
- ◇第16回事務局会議（9/20 松江市2階応接室 14:00～17:30）  
議題：9/27の対応 他  
内容：9/27当日の流れの確認。全国大会の協議。
- ◇第17回事務局会議（9/28 松江市2階応接室 14:00～17:00）  
議題：審査結果を受けて 他  
内容：審査結果内容の情報収集。名称、テーマの検討。ジオパークの名称を変更する方向で議論した。地名、地域名は必要であり、素案を複数提示し、専門部会で説明することとした。
- ◇第18回事務局会議（10/3 ニューアーバンホテル 16:00～18:00）  
議題：審査結果を受けて 他  
内容：認定保留の理由の調査と対応協議。専門部会での議論を踏まえ、名称とテーマの絞り込みを図った。
- ◇第19回事務局会議（10/12 松江市2階応接室 13:30～17:00）  
議題：JGCへの回答(案) 他  
内容：名称とテーマ等のJGCへの回答案の協議。全国大会の協議。
- ◇第20回事務局会議（11/7 松江市2階第2応接室 14:30～17:30）  
議題：JGCへの回答(案) 他  
内容：JGCへの回答(案)について対応協議。専門部会と臨時総会で回答案を諮り、12月に再審査を受けることを確認した。
- ◇第21回事務局会議（11/14 ホテル白鳥3階鳳凰の間 16:00～17:30）  
議題：臨時総会について 他  
内容：臨時総会に向けて最終打ち合わせ。

国引きジオパーク推進協議会会員名簿

(敬称略) 2017/7/25現在

	部会	選出分野	所 属	委員氏名
会長 副会長 副会長 副会長 副会長 会員	会長代行		松江市長 出雲市長 松江商工会議所 会頭 国立大学法人島根大学 特任教授	松浦 正敬 長岡 秀人 古瀬 誠 小林 祥泰
		ジオ環境研究分野	国立大学法人島根大学 教授 (島根大学ミュージアム 館長) 島根県地学会 会長 島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課長代理 公益財団法人 日本野鳥の会 副会長 島根県埋蔵文化財調査センター 調査補助員	入月 俊明 永井 泰 井上 雅仁 佐藤 仁志 内田 律雄
	学術・研究部会	歴史・神話・文化分野	出雲大社 権宮司 一畑薬師管長 荒神谷博物館 館長 島根県立古代出雲歴史博物館 館長 島根県立八雲立つ風土記の丘 所長 山陰万葉を歩く会 会長 万九千神社 宮司 公立大学法人島根県立大学 教授 長浜神社 宮司	千家 和比古 飯塚 大幸 藤岡 大拙 今岡 充 松本 岩雄 川島 英美子 錦田 剛志 小泉 凡 秦 和憲
		観光・広報部会	旅行・交通分野	西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 副本部長 一畑電気鉄道株式会社 代表取締役社長
	マスメディア・圏域メディア分野		山陰中央テレビジョン放送株式会社 代表取締役社長 NHK松江放送局 局長 株式会社山陰放送 代表取締役社長 株式会社山陰中央新報社 代表取締役社長 山陰ケーブルビジョン株式会社 代表取締役社長 出雲ケーブルビジョン株式会社 代表取締役 株式会社島根日日新聞 専務	田部 長右衛門 木村 靖 坂口 吉平 松尾 倫男 石原 俊太郎 今岡 余一良 菊地 恵介
	商工観光分野		出雲商工会議所 会頭 平田商工会議所 会頭 一般社団法人松江観光協会 常務理事 一般社団法人出雲観光協会 会長	三吉 庸善 大谷 厚郎 内田 敏夫 今岡 一朗
	農林水産業・食品関連分野		島根県農業協同組合 代表理事組合長 漁業協同組合JFしまね 代表理事会長 株式会社田部 代表取締役社長	竹下 正幸 岸 宏 田部 長右衛門
	保全・教育部会	環境保全・防災分野	中国電力株式会社 島根支社 執行役員支社長 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 所長 認定NPO法人自然再生センター 理事長 松江工業高等専門学校 副校長 環境省松江事務所 自然保護官	妹尾 雅雄 柴田 亮 徳岡 隆夫 浅田 純作 瀬川 涼
		地域活動分野	松江市 公民館連合会 代表 出雲市 コミュニティセンター長会 (鰯洲コミュニティセンター長) 日本エコビレッジ研究会 代表 島根県自然観察指導員 島根半島四十二浦巡り再発見研究会 事務局長 ウミネコ生態調査専門調査員 神社ガールズ研究会 代表 加賀まるごと博物館 代表	小川 英二 高橋 一夫 召古 裕士 門脇 和也 木幡 育夫 濱田 義治 河野 美知 中野 雅行
		ミュージアム連携分野	国立大学法人島根大学 講師 島根県立宍道湖自然館ゴビウス 館長 出雲科学館 館長 モニュメント・ミュージアム来待ストーン 学芸員	辻本 彰 中畑 勝見 山本 利明 古川 寛子
監事			松江市 会計管理者 出雲市 会計管理者	遠田 悟 福岡 浩
事務局長 事務局次長	運営顧問		松江市 副市長 出雲市 副市長	能海 広明 伊藤 功
	事務企画管理		松江市 政策部長 松江市 政策部国引きジオパーク推進室 室長 ※協議会事務局：松江市国引きジオパーク推進室・出雲市政策企画課	井田 克己 佐目 元昭
顧問			国立大学法人島根大学 学長 映画監督 古代史家、元島根県古代文化センター 客員研究員	服部 泰直 錦織 良成 関 和彦

国引きジオパーク推進協議会専門部会・幹事会名簿

2017/7/25現在

部会	選出分野	所 属	役 職	氏名	部役職	事務局会
会長代行		国立大学法人島根大学	特任教授	小林 祥泰		●
学術・研究部会	ジオ環境研究分野	島根大学ミュージアム（国立大学法人島根大学） 島根県地学会 島根県立三瓶自然館サヒメル 公益財団法人 日本野鳥の会 島根県埋蔵文化財調査センター	ミュージアム館長 副会長 学芸課長代理 副会長 嘱託員	入月 俊明 高尾 彬 井上 雅仁 佐藤 仁志 内田 律雄	学術・研究部 会長	●
	歴史・神話・文化分野	出雲大社 一畑薬師 荒神谷博物館 島根県立古代出雲歴史博物館 山陰万葉を歩く会 万九千神社 公立大学法人島根県立大学 長浜神社	総務部長 管長 副館長 学芸部長 会長 宮司 教授 宮司	川谷 誠一 飯塚 大幸 平野 芳英 的野 克之 川島 芙美子 錦田 剛志 小泉 凡 秦 和憲	学術・研究部 副会長	
観光・広報部会	旅行・交通分野	西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 西日本旅客鉄道株式会社米子支社山陰地域振興本部 一畑電気鉄道株式会社	副本部長 課長 経営推進部長	和田 昇司 木内 吾平 安井 和雅		
	マスメディア・圏域メディア分野	山陰中央テレビジョン放送株式会社 NHK松江放送局 株式会社山陰放送 株式会社山陰中央新報社 山陰ケーブルビジョン株式会社 出雲ケーブルビジョン株式会社 株式会社島根日日新聞	報道制作部副部長 局長 松江支社長 営業局担当局長兼地域振興部長 番組製作課長 取締役制作部長 専務	山根 収 木村 靖 山根 貴司 藤井 満弘 山田 勝美 安里 陸司 菊地 恵介		
	商工観光分野	松江商工会議所 出雲商工会議所 平田商工会議所 一般社団法人松江観光協会 一般社団法人松江観光協会美保関支部 一般社団法人出雲観光協会	専務理事 専務理事 専務理事 事務局長 事務局長 事務局長	松浦 俊彦 米原 直彦 長岡 明生 土江 義夫 住吉 裕 小野 篤彦	観光・広報部 会長 観光・広報部 副会長	
	農林水産業・食品関連分野	島根県農業協同組合 漁業協同組合JFしまね 株式会社田部 株式会社田部	代表理事専務 常務取締役 経営管理本部総合企画グループリーダー	高木 賢一 (調整中) 浅田 伸二 井上 裕司		
保全・教育部会	環境保全・防災分野	中国電力株式会社 島根支社 中国電力株式会社 島根支社 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 認定NPO法人自然再生センター 松江工業高等専門学校 環境省松江事務所	副支社長 広報グループマネージャー 副所長 総務課長 環境学習部長 副校長 自然保護官	栢野 和則 金崎 洋利 西尾 正博 下田 真之 阿部 国広 浅田 純作 瀬川 涼		
	地域活動分野	松江市民館連合会 出雲市コミュニティセンター長会 日本エコビレッジ研究会 島根半島四十二浦巡り再発見研究会 神社ガールズ研究会 加賀まるごと博物館	代表 センター長 代表 島根県自然観察指導員 事務局長 ウミネコ生態調査専門調査員 代表 代表	小川 英二 高橋 一夫 召古 裕士 門脇 和也 木幡 育夫 濱田 義治 河野 美知 中野 雅行	保全・教育部 副会長 保全・教育部 副会長	
	ミュージアム連携分野	島根大学ミュージアム（国立大学法人島根大学） 島根大学教育学部自然環境教育講座（地学） 島根県立宍道湖自然館ゴビウス 出雲科学館 来待ストーン	ミュージアム副館長 講師 館長 副館長 学芸員	会下 和宏 辻本 彰 中畑 勝見 藤村 八郎 古川 寛子	保全・教育部 会長	●
事務局	事務局長	松江市政策部	部長	井田 克己		●
	事務局次長	松江市政策部地域振興課国引きジオパーク推進室 " " "	室長 係長 専門員 事務局員	佐目 元昭 森江 和文 野村 律夫 三代 隆司		● ● ● ●
		出雲市総合政策部 出雲市総合政策部 出雲市総合政策部政策企画課	部長 次長 係長	石田 武 三島 武司 荒木 真一		● ● ●



## 第1章 申請地域について

### 1-1 申請地域の名称、テーマ、背景と考え方

名称は「島根半島・宍道湖中海ジオパーク (Shimane Peninsula and Shinjiko Nakaumi Estuary Geopark)」とし、「出雲国風土記の自然と歴史に会う大地」を全体テーマに設定する。

島根半島・宍道湖中海ジオパーク構想（以下「本構想」という。）では、地質・地形遺産を基盤とし、この地域における古代の様相を精密に記録した出雲国風土記を模範としながら、大地に根づき現在まで続く歴史文化を織り交ぜた視点でジオパークの魅力・価値を次の世代へ、そして世界へと伝えていく。

#### (1) 島根半島・宍道湖中海及び南部丘陵山地の地質地形的背景

島根半島と南部丘陵山地に広がる地域には、主に約 6,000～3,300 万年前の古第三紀に形成された花崗岩類と約 2,300～1,000 万年前の新第三系中新統が発達する。両地域の間には国内最大の連結汽水湖である宍道湖と中海が分布する。

##### ① 山陰地域を代表する地質層序と日本海形成史への学術的貢献

古くより宍道褶曲帯と呼ばれてきた島根半島の地質学的意義が、最近の日本列島を取りまく地質情報のなかで一層価値が高まっている。島根半島の中新統層序や産出化石が示す淡水成、汽水成、そして海成層への一連の変化は、日本海の拡大事変と関係すると考えられている。深海で起こった火山活動は広域にわたる熱水変質作用を伴い、黒鉱鉱床を形成した本邦のグリーンタフ変動帯の西端を特徴づける。南部丘陵山地における大規模な不整合は、西南日本本州弧の時計回り回転やフィリピン海プレートと北北西移動の時期と重なる。また、島根半島の砂岩泥岩互層からなるタービダイト層や海底火山の噴出物は、山陰を代表する大規模な地質体として知られる。

南部丘陵山地である宍道湖南岸では、中期中新世の温暖期から冷温期へ移行する過程に形成された布志名層から動物化石が産出し、布志名動物群と呼ばれる。この地層を模式地として記載された新種の軟体動物化石は、現在までに 16 種を数える。

##### ② 沖積平野の形成過程と宍道湖中海低地帯の特異性

この低地帯は、土砂供給元の中国山地のまさ（風化花崗岩）と大山・三瓶山の安山岩質火砕物、運搬者である斐伊川等の河川、そして河口の前面部に位置する器としての島根半島の三者が、平野と汽水湖の効果的な形成を導いた特異な発展過程を示す。塩分の異なる宍道湖と中海の湖水循環は、島根半島の東西約 70km におよぶ地形に規制され、それぞれ特有な生態系を形成する。



出雲平野上空から宍道湖方面を望む

### ③ 人為的平野の形成と人々のくらし

この地方特有の「たたら製鉄」による「かんな流し」は人為的な平野形成の要因となった。斐伊川によって運搬された「かんな流し」による花崗岩質粒子は、出雲平野の1/3を形成するまでとなり、日野川からの流出は弓ヶ浜半島を拡大させた。洪水時の流路を人為的に管理し平野の拡大に供した川違え（かわたがえ）は、斐伊川河口域の地形を特徴づける。平野の拡大は人々の生活の場として地域固有の文化を生んだ。築地松は、出雲平野の人々の生活と自然を語るうえで欠かせない日本を代表する景観となっている。

### (2) 自然と歴史文化が融合したユニークな大地

『出雲国風土記』は、時の朝廷が各諸国へ向けて国の実情を報告するように命じた713年から、さらに20年もの歳月を経て733年に提出された。地名由来の伝承の他に、方位や計測距離を織り込んだ記述は、極めて詳細な現地調査に基づいていることが窺える。そして、驚くことに1,300年経った今でも出雲国の山河や神社は、『出雲国風土記』の往時を偲ぶことができる原風景として残っている。その『出雲国風土記』の意宇郡の冒頭に、「国引き神話」とも呼ばれる有名な詞章がある。

「八雲立つ出雲の国は、狭市の菴国なるかも。初国小く作らせり。  
故、作り縫はな」から始まり、「『国来、国来』と引き来縫へる国は、  
去豆の折鉋よりして、八穂米支豆支（杵築）の御埼なり。かくて堅  
め立てし加志（杭）は、石見国と出雲国との場なる、名は佐比売山、  
是なり。亦、持ち引ける綱は、箇の長浜、是なり。」（加藤義成『修  
訂出雲国風土記参究』から引用）と展開する。



『出雲国風土記』（日御碕神社本）  
日御碕神社所蔵、島根県立古代  
出雲歴史博物館写真提供

この詞章は、島根半島が天然の巨大な防壁となり、斐伊川水系の土砂を堰き止めて肥沃な平野を形成してきた歴史と、入り江や潟湖の形成が国土創生という観点で述べられている。いわゆる「国引きの詞章」は、花崗岩類を基盤とする中国山地、島根半島そして日本海へと俯瞰した大地の中で低地帯から半島へと広がる国土の耕作地の拡大を祝い、新羅や古志などとの環日本海交流が盛んな場所として土地を引く姿にたとえた。「河船のモノロモノロ（ゆっくり）に」と陸塊を綱で引く様子は、平野の拡大であり、島根半島を取り込んでいく自らの生活圏の拡大でもあった。国土創生の一大事業を詩歌風に語り尽くすこの詞章は、全国的にも、世界的にも、次代の人々に伝え継ぐべき価値をもっている。

### (3) 環日本海域の古代の人々の交流

島根半島周辺の古代においては、宍道湖・中海及び「神門水海」のような潟湖が分布していた。こうした地勢的特徴は、朝鮮半島・九州北部から北陸以北に及ぶ環日本海地域の交流拠点にもなった。

例えば、出雲地域における弥生遺跡からは、朝鮮半島に由来する鉄器・青銅器・土器が数多く出土している。古墳時代にも朝鮮半島の陶質土器が出土し、出雲西隣の石見東部沿岸の遺跡からは7世紀頃の新羅産印花文土器も見つかっている。358本の銅剣が出土した荒神谷遺跡における青銅器原料は、朝鮮半島・中国華北地域から九州北部を經由してもたらされたものと考えられている。一方、韓国釜山

市にある東來遺跡（古墳時代前期）からは日本の土器が出土している。この他、九州北部産の銅矛・弥生土器や北陸産ヒスイの出土などもこうした地域と古代出雲との文物交流の一端を示している。



荒神谷遺跡から出土した 358 本の銅剣  
(古代出雲歴史博物館展示)



楽浪系の硯片が出土した田和山遺跡

#### (4)『出雲国風土記』と地形地質学が織りなすジオパーク構想

『出雲国風土記』には、現在まで続く豊かな自然が余すところなく描かれ、その一つ一つが、今を生きる人々の暮らしにも宿っている。世界的に見ても歴史・神話と地形が一つになって存在し続けること自体が人類の遺産であると言える。

このような貴重な空間をタイムスリップして楽しみ、学んでもらおうというのが本構想である。海外の人も、国内の人も『出雲国風土記』を一読してからこの空間を巡ることで、より興味深い体験ができるものと考えている。その地質学的妙味は、まさに神の織りなす世界である。島根半島、宍道湖・中海低地帯に広がる出雲平野と古墳群、海食洞と黄泉の国、巨石に宿る神と断層などは、自然の造形を目前にして古代人と空間を共有できる大地の公園と言える。そして、歴史的にも考古学的にも自然科学的にも魅力に溢れており、日本を見つめ直す機会となることは間違いない。

(以下略)

